

## 県外派遣報告書

審判員名	駒村 匡昭	所属	高体連
大会名	平成27年度 第26回関東高等学校バスケットボール新人大会		
期間	平成28年2月5日(金)～7日(日)		
会場	小田原市総合文化体育館(小田原アリーナ)		
スケジュール			
期日	内容	場所	
2月5日(金)	審判会議	グランドホテル神奈中 平塚	
2月6日(土)	1、2回戦	小田原アリーナ	
2月7日(日)	準決勝 決勝	小田原アリーナ	
会議 講義 内容			
<p>関東ブロック長 安西氏より  自分の割り当てられた試合を大切に、公正・公平に、強い気持ちで一生涯懸命担当してもらいたい。いつでも毅然とした態度で取り組み、大会を成功裏に終わらせましょう。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指名審判員 稲葉氏より 『シリンダーとリーガルガーディングポジションについての理解』  判定の材料とは？ 判定のために知っておいた方がよい情報とは？  ①技術、規則の理解・・・★    ②選手の特徴やチームの戦略    ③点差と時間帯  ④ファウルの数    ⑤体格差、フィジカルの違い(影響のあり方が変わってくる)  ⑥前のプレイとの相違    ⑦後のプレイへの影響    ⑧重要な選手とその守り方</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">★シリンダーとリーガルガーディングポジション</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>どちらが先に侵して どう影響があるのか(ありそうなのか)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>向かい合いが前提 予測し、プレーをはじまりから捉える</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">   シリンダーから外れた手や肘、腰の使い方は正当ではない  オフェンスもディフェンスも同等の権利をもっている </p> </div> <p>◎瞬間では判定できない  →2人(3人)で協力して判定するべきレフリーがはじめから見ていることが大事</p> <p>◎早い段階に判定基準を示す  早い段階・・・その試合で最初に起こったとき  判定基準・・・その試合のスタンダード(厳しく判定することではない)</p> <p>◎どちらのチームにも同じように＝公正・公平</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指名審判員 野口氏より  チームにとっては審判のランクや性別は関係なく、バスケットをよりよく運営してほしいと思っている。そのためにも、信頼を失うような根拠のない判定はしないようにし、もしそうなってしまった場合は、信頼を回復するために、足を運び続ける。審判がお互いに孤立しないように、チームとして試合を運営していきましょう。</p>			

関東ブロック長 安西氏によるレクチャー『スムーズなゲーム運営のために』

- ・審判に必要なことは、ルールに精通、技術・心理の理解、コーチ・プレイヤーの要求  
⇒コミュニケーション能力
- ・より良い位置・角度でプレーを捉える最大限の努力 ⇒ 最低限のモチベーション
- ・4方向からのゲーム運営のために ⇒ ルールに則り公正・公平にすすめる
- ・審判として大事なの一貫性  
⇒ (個人もクルーも) (出だしも終わりも) (AもBも)
- ・アクションを判定し、リアクションを判定しない
- ・判定の拠り所はルール ⇒ ルールに照らし合わせて判定する

### 実技

担当試合	期 日	2月6日(土)	男子	一回戦
	対戦カード	市立船橋(千葉) VS 東海大相模(神奈川)		副審
	相手審判	主審 二宮 隆二 氏(茨城)		

ミーティング内容

主任 山田 健一 氏(茨城)

リードが見にくいファウルをトレールから積極的に判定するなど、ゲームの立ち上がりから思い切って判定をしようという気持ちが伝わってきた。ショットクロックの確認や、ベンチを座らせることなど、一試合を通して落ち着いてコートに立っていたと思う。

今後の改善点として

- ・パートナーの判定基準を取り入れて、同じプレイには同じ判定をすること
  - ・リードでリバウンドを見るときに、中に入りすぎているときがあるので見方を工夫すること
- これらの点を研究し、今後の活動に活かしてもらいたい。

### 全体の感想

今回初めて県外のブロック大会に派遣審判として参加させていただきました。日頃の活動の成果を発揮しようという強い気持ちで臨みました。よい緊張感の中、一試合取り組むことができ、判定に関しても今後の改善点が明確になり、次につながる大会になったと思います。

また、今大会で東京都の野口氏がブロック大会から勇退されるということで、多くの審判仲間がその姿を見ようと会場に集まりました。そういった場に審判員として立ち会えたことをとても有難く思うとともに、関東・東京ブロックの審判員の結束力の強さを改めて感じる事ができました。

最後になりましたが、安西関東ブロック長、清水神奈川県審判長をはじめ、開催県の神奈川県の皆様、関東ブロックの皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。また、このような機会を与えてくださった吉田審判長はじめ埼玉県協会の皆様にも感謝申し上げます。今後も、より一層精進し審判活動に取り組んでいきたいと思っております。